

令和7年度 災害廃棄物処理支援員登録者及び 災害廃棄物処理担当者向け研修会 (近畿ブロック)

「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク） による市町村支援」

日時：令和7年12月4日（木）13：45～16：30

場所：AP大阪梅田東 Mルーム

（オンライン同時配信）

プログラム・講演概要

◆主催者あいさつ （13:45～13:55）

環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎

◆説明 （13:55～14:05）

「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）について」

奥田 孝史 （近畿地方環境事務所 資源循環課 廃棄物対策等調査官）

（14:05～14:10）

「近畿ブロックにおける人材バンク登録状況について」

高垣 遼涼 （近畿地方環境事務所 資源循環課 係員）

◆講演1 （14:10～15:10）（講演 50分 / 質疑応答 10分）

「被災地における収集運搬支援について」

菅澤 拓哉 氏 （仙台市環境局 脱炭素都市推進部 先行地域推進室 総括主任）

＜講演概要＞

仙台市では、平成23年の東日本大震災により、本市のごみ総量の約7年分に相当する膨大な量の災害廃棄物が発生したが、多くの自治体から支援を受け、処理を3年以内で完了した。東日本大震災後は、受けた支援は支援でお返しするとの思いから、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨、令和元年台風、直近では令和6年能登半島地震まで、各地の災害廃棄物処理の支援に職員を派遣している。本講演では、支援した内容や支援経験で実感した、現場でしか学べなかったことなどについて紹介する。

◇休憩10分

◆講演2 （15:20～16:20）（講演 50分 / 質疑応答 10分）

「災害廃棄物処理支援と受援体制について」

竹本 啓助 氏 （熊本市政策局 危機管理防災部 危機管理課 技術参事）

＜講演概要＞

平成28年熊本地震の際に被災自治体職員として災害時廃棄物の現場を体験したことをきっかけに、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨において支援を行った。本講演では、他の自治体の支援経験をもとに、本市や他自治体や民間団体、環境省によりどのような支援が行われているかを紹介する。また、それらを踏まえて、被災自治体と支援団体との連携における留意点などについて紹介する。

◆閉会

（16:20～16:30）

主催：環境省近畿地方環境事務所